

【概要】

2014年度 民間住宅ローン利用者の実態調査 【民間住宅ローン利用予定者編】(第3回)

I 調査の概要

今後5年以内に、住宅を取得する計画があり、かつ、民間住宅ローンを利用する予定の方を対象にして、住宅取得に向けた意識や行動、利用予定の住宅ローンの金利タイプなどについて、インターネットによるアンケート調査を2015年2月に実施し、その結果を取りまとめたものです。
(回答数:1,020件)

II 調査結果の主なポイント

※<>は、本調査結果の詳細資料中の該当ページ

1 希望する住宅ローンの金利タイプは、「全期間固定型」及び「固定期間選択型」が増加<p. 2>

- ・ 「全期間固定型」は37.9%(前回調査:34.3%)、「固定期間選択型」は38.9%(前回調査:36.2%)と増加
- ・ 一方、「変動型」は23.1%(前回調査:29.5%)と減少

2 今後1年間の住宅ローンの金利見通しは、「現状よりも上昇する」が減少<p. 3>

- ・ 今後1年間の住宅ローン金利見通し(全体)は、「現状よりも上昇する」が33.7%(前回調査:36.8%)と減少し、「ほとんど変わらない」も38.7%(前回調査:41.3%)と減少
- ・ 「見当がつかない」の割合は、すべての金利タイプで増加

3 住宅の買い時意識が向上<p. 6>

- ・ 今(今後1年程度)は住宅取得のチャンス(買い時)だと思ふ方の割合は、50.2%と前回調査(46.3%)、前々回調査(42.2%)以降、増加基調
- ・ 住宅取得のチャンス(買い時)だと思ふ理由は、「住宅ローン金利が低水準だから」が81.4%(前回調査:74.3%)に増加した一方、「消費税率引上げ前だから」は33.6%(前回調査:44.5%)に減少

本調査結果の詳細は、住宅金融支援機構ホームページ(<http://www.jhf.go.jp/files/300241930.pdf>)に掲載